

女性のエンパワーメントーウーマン・アイを通して

1 メキシコの社会階層格差と女性の社会進出

酒井 和美

今回、寄稿をさせて頂くに当たり、メキシコに駐在し、メキシコにおける社会階層の格差によって異なる女性の社会進出について日頃感じることをご紹介したいと思う。

「マチスモ」という男性優位を表す考え方がラテンアメリカの文化の特徴として挙げられることがある。他のラテンアメリカ諸国同様、メキシコの男性も女性に大変親切で、重たい荷物を持ってくれたり、エレベーターやビルの出入口では扉を開けて必ず女性を先に通す。レディファーストの礼儀であると同時に女性は男性に守られる存在であるということを示す為でもあるという。

社会構造にもこれは見ることができ、歴史的にはメキシコだけでなく、ラテンアメリカ全般に男性が家計を支え、女性は家庭を守ると言う構図があったのではないと思う。

では、現在はどのようなのだろうか。メキシコの労働人口における女性の割合は37.6%、世界的に見ると高い数字ではないがラテンアメリカ諸国の平均を僅かに上回っており、1970年代には20%に満たない状況であったが80～90年代に急速に増加したと言う。

政治家、官僚、大手企業には女性の幹部も多いように感じる。メキシコで最も注目を集めるエネルギー改革のキーパーソンと言われるエネルギー省のメルガー次官、国営石油公社（PEMEX）のサラテ国際部顧問は国際的にも、その能力を高く評価されている女性リーダーの代表だ。また、メキシコ国内で地方に出張し、州政府関係者と面談をしても、外資との窓口となる産業振興局長、企画局長など重要なポストに女性が就い

ていることも多い。

このように見ると、日本よりも女性の社会進出が進んでいるようにも思える。

但し、これは高等教育を受けることができ、官公庁や優良企業に就職のできる一握りの社会階層における現象なのではないかと考える。メキシコはOECD加盟国であり、1人当たりのGDPも10,000ドルを超える国である。一方で、国民所得の50%以上を人口の20%に満たない富裕層が占める社会階層格差の問題を抱えている。さらにこの社会階層構造が過去10年に亘って、ほとんど変化していないことが大きな問題と言える。

この富裕層のさら一部上層部によって政治も経済も動かされていると言っても過言ではない。経済力のある彼らの中には米国を中心とした海外の有名大学に留学し、修士、博士号を取得している人も多い。日本では見られないことだが、名刺に学士、修士、博士と書かれている人もいる。この場合、本人と話しをする際に、〇〇学士、××博士等と呼びかけることが一般的だ。大学での専攻が職業に直結している（これは世界的に見れば一般的で、大学の専攻が必ずしも就職先に直結していない日本の方が珍しいとも言える）ので、その分野で高い専門性を持っているかどうかが重要視されていると見られ、ここでは性別による差が生じることは少ないように感じる。

それは、日本における女性の社会進出において最も大きなハードルとなる家事・育児の負担を彼女（彼）たちは経済力によって解決することが可能だからだ。ハウスキーパーやベビーシッターという外部の支援を受けることでその負担を軽減できていると推察する。

このような富裕層以外はと見ると、所謂、社会階層では中間層と言われる層では、前述の富裕層のようにハウスキーパーやベビーシッターを雇用できる家庭はほとんどなく、夫と協力しながら、仕事と家事、育児を両立させている姿は日本の働く女性に重なる。メキシコでも核家族化が進んでいると言われるが、未だ日本よりは家族、親戚が近くに住んでいることが多く、支援を受けやすい環境にあるように感じられる。わが社でも従業員の過半数は女性で、そのほとんどが子育



メルガー次官写真（エネルギー省 web サイトより）

出所：SECRETARIA DE ENERGIA, Mexico

http://www.sener.gob.mx/portal/Default_Intermedia.aspx?id=2538

てをしながら働いている。

出産後の職場復帰については、日本と同様に家族等周囲の支援を得られるかどうかが大きく影響するようだ。私の周りでは両親や兄弟等、家族の協力を得られ、早期に職場復帰できている女性も多いが、家族のサポートが得られない場合は復職は難しいようだ。

子育てをしながら働く女性への企業側のサポートはまだまだ進んでいないように見える。育児期間中の就業時間の短縮等の制度を整えている企業はほとんどないのではないだろうか。就業時間を短縮できたとしても、収入の減少は免れないだろう。

保育園等の施設も夜遅くまで子供を預かってくれるものではないようだ。

さらに、インフォーマルセクターと呼ばれる露天商や行商、家事サービス等に従事する女性は厳しい環境にある。メキシコでは労働人口の約60%がこのインフォーマルセクターに従事していると言われているが、安定した収入を得ることは難しく、社会保険に加入することもできないため、受けられる国の福利厚生サービスも限られる。女性労働者はこのインフォーマルセクターに従事する割合が男性に比較して高いことが分かっており、不安定な生活を強いられていることが分かる。

インフォーマルセクターの従事者は十分な教育を受けることができない人たちがほとんどで、社会階層の下位に位置する。高等教育を受けていない人が専門職、雇用主に就ける可能性は極めて低いことは統計でも明らかになっていると言う。経済力がないために十分な教育を受けることができず、教育を受けることができないために高収入の職に就くことはできないという悪循環があるということだろう。特に、女性の場合は教育の水準の高低が雇用状況、収入に大きく影響するそう。

インフォーマルセクターに含まれる女性の職業で大きな割合を占めるのは恐らく家事サービスであろう。この業態は、家事・育児とも両立できるが、その分就労時間が限定され、収入が低く抑えられるという特徴がある。このサービスが高学歴の女性の社会進出を支え、さらなる高収入を促進しているとも言える。

以上のように、メキシコの抱える社会階層格差の問題が女性の社会進出にも大きく影響を与えているのではないかと考えている。その深層には、教育の問題が

ある。経済的に恵まれない家庭でも、子供たちが十分な教育を受けられる環境を整えなければ、格差は縮まらない。2012年の新政権発足後進められる構造改革の中で、教育問題も解決されることを期待したい。

男性、女性に関係なく、メキシコ人は非常に勤勉で長時間の労働も厭わない。ラテン系と聞くと「時間にルーズ」、「いい加減」と思う人がいるかもしれないが、締切りに仕事を間に合わせるためには残業も休日出勤もする。

メキシコは世界各国の主要自動車メーカーの生産基地となっているが、関連の部品メーカー等含め進出している外資企業の多くから「メキシコ人は手先が器用で几帳面に仕事をこなすので、メキシコは世界の生産拠点の中でも高い効率を誇っている」という意見がよく聞かれる。

わが社の社員も頭が下がるほど良く働く。その姿を見て自分も頑張らなければと思わされることが度々ある。

このような仲間に出まれて駐在員生活をおくらせてもらっている1人として、メキシコが真面目に働く人たちが報われる社会となり、さらにその中で女性が活躍できる場が広がることを願っている。

(さかい かずみ メキシコ三菱商事)